



錦鯉の池の溶存酸素（DO） – 明け方に何が起きているか

h2koi.com · 2026-08-04

要点

- 水温が上がるほど、水は物理的に酸素を溶かしておけません。夏の池は上限そのものが低くなります。
- いちばん低いのは明け方。水草も藻類も、夜のあいだは酸素を出さずに消費する側に回ります。
- 目安は8～10 mg/Lで快適、7 mg/Lを下限、6 mg/Lを下回れば負担、4 mg/Lを下回ると急性の危険域。
- 鼻上げが見えた時点で余裕はもうありません。対策はエアレーションを昼だけでなく夜通し回すことです。

水温	飽和溶存酸素量の目安	読み方
15℃	約 10.1 mg/L	上限に余裕がある
20℃	約 9.1 mg/L	平常。落ち込んでも戻りやすい
25℃	約 8.3 mg/L	満杯でようやく快適域の上端
28℃	約 7.8 mg/L	供給と消費が拮抗しはじめる
30℃	約 7.6 mg/L	満タンでも7 mg/L台。夜の下げ幅がそのまま効く
32℃	約 7.3 mg/L	一晩の落ち込みに耐える余力がない

薬品処理の最中と、雷雨のあとにも酸素は下がります。処理によっては水中の酸素を直接消費するものがあり、しかも処理中はいつもの曝気を弱めなくなる場面が出てきます。処理をするときこそ酸素を切らさないでください。夕立や雷雨のあとも、日射が途切れて光合成が止まり、雨で池がかき混ぜられて有機物の分解が進むため、翌朝の底が普段より深くなる場合があります。

H2Koiがすること。産業用グレードのセンサーで溶存酸素を mg/L と飽和度（%）で直接測定し、連続して記録します。これは推定値ではなく、実際に測っている項目のひとつです。夜明け前の最低値と、その傾向を見える形で残します。KHについては0～20 dKHの算出値として表示します（滴定による測定ではありません）。GHは扱いません。

H2Koiがしないこと。病気や寄生虫の判定はしません。何かを防ぐ装置でもありません。連続測定はあくまで早めに気づくためのもので、判断と処置は飼い主の側にあります。